

第1学年国語科学習指導案

日時 平成17年9月14日(水) 5校時
生徒 和賀東中学校1年A組
男子16名 女子13名 計29名
指導者 教諭 下柵棚 秀光

- 1 単元名 四 暮らしを見つめる(光村図書)
教材名 文章から課題を見つけよう

・魚を育てる森

・「めぐる輪」の中で生きる

課題について調べよう 調べたことを意見文にまとめる
意見交換会をもとう グループ・ディスカッションをする

2 単元について

(1) 生徒観

男女の仲がよく落ち着いた授業態度であるが、自分の考えの発表には慎重である。中学入学時の国語の意識調査をみると、「国語は好き」が4人/29人(13.8%)、「好きでも嫌いでもない(普通)」が17人(58.6%)、「嫌い」が8人(27.6パーセント)であった。「嫌い」とする生徒の理由は、「読むのも書くのも苦手」「漢字が不得意」を挙げていた。逆に「好き」とする生徒は4人とも「本を読むのがおもしろい」であった。説明的文章については、「難しい言葉や、複雑な説明が多くてわかりにくい」「書いてあることが全然おもしろくない」という理由で、かなりの生徒が苦手意識をもっている。

この教材「文章から課題を見つけよう」は、「魚を育てる森」「めぐる輪」の中で生きる」という二つの説明的文章の読み取りと内容理解を基本としている。文章の要旨をとらえるために、ぜひともキーワードやキーセンテンスを意識させたうえで、文章の筋道や構成に目を向け、筆者の主張に気づかせたい。

(2) 教材観

この単元は「文章の要旨をとらえ、見つけた課題について図書館で調べたり考えたりして自分の考えをまとめ、クラスで意見交換会をする」ことをねらいとしている。系統上の位置として「話すこと・聞くこと」では第一単元「新しい出会い・スピーチの会を開く」と第三単元「物語を楽しむ・紹介のスピーチをする」を受け、二年の「編集会議やパネルディスカッション」に連なる。「書くこと」では第二単元「自然の不思議をさぐる・書く材料を集め、整理して文章にまとめる」を受け、第六単元「言葉を探求する・報告書をまとめる」につながっていく。「読むこと」では第二単元「自然の不思議を探る・まとめごとの内容をとらえ、「問い」と「答え」に注目する」を受け、二年の「筆者の論理の展開をとらえる」へ連なる。

「魚を育てる森」は、北海道の襟裳岬にスポットをあて、襟裳の森が消えると同時に海の魚介類も姿を消したのに、その後人々がクロマツの防砂林を作ると、思いがけず魚介類がもどってきたのはなぜかという疑問からスタートする。そこには実は森と腐植土の役割が介在していたのであるが、森と海のような自然界の微妙なバランスをこわさないようにしなければという筆者の意見は理解しやすく、自分を取り巻く自然保護や環境保護の問題に目を向ける格好の教材といえる。

(3) 指導観

説明的文章の読み方の力は、次の三点であると考え。「①各段落ごとの要点を押さえ、内容を要約する力②各段落ごとの働き(機能)を考え、文章の組み立てを考える力③要旨を読み取る力」これらの力は、説明的文章に書かれている内容を正しくとらえるために必要なことである。

一学期に第二単元の「海の中の声」「クジラたちの音の世界」で小見出しの付け方を学習した。自分の付けた小見出しや付けた理由を発表させることで、小学校で学習した力がどこまで身についているか確認したが、その力は十分ではなかった。

「魚を育てる森」は、本単元の最初に扱う文章である。年間指導計画ではこの単元が13時間扱

いで、「魚を育てる森」は2時間となっているが、今の生徒の力では、時間的に少なすぎる。そこで今回は、2時間増やし4時間でこの説明的文章を取り扱い、内容をしっかり読み取ることで、この単元のねらいである「より明確な自分の課題を見つけること」が可能になると考える。

3 単元の目標

文章の要旨をとらえ、環境に関する自分の課題を見つけることができる。
図書館などで課題について調べたことを意見文にまとめることができる。
調査したことをもとに、討論会を行い意見交換会を行うことができる。

4 単元の評価規準（ア～カ・・・学習指導要領の指導事項）

【関心・意欲・態度】

- 現代の環境問題など人間が自然や環境に与える問題について関心を持ち、図書館などで関連する資料を調査して、自分の考えをまとめようとしている。

【能力/知識・理解・技能】

- 文章中の事実と意見、文章の構成や展開をとらえ、筆者の考えや文章の要旨をとらえている。
（読む・・・イ内容理解や要約 ウ構成や展開 エ主題や要旨と意見 言語事項・・・(1)力言語生活）
- 自分の課題にそって図書館などで資料を集め、意見や提案が相手に理解してもらえるように工夫して文章にまとめられる。
（書き・・・ア発想や認識 ウ選材 エ推敲 読む・・・力情報の活用）
- 討論の目的やルールを理解し、積極的に意見交換を行っている。
（話す・聞く・・・ア考えや意図 イ話題 ウ構成や論理 エ話し合い）

5 指導計画と評価規準（総時数13時間 本時3 / 13）

次	時	学習活動	関心・意欲・態度	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
1	1	教科書のリード文から、環境についての問題点を交流する。 「魚を育てる森」全文を通読し、疑問に思ったことを書く。	自分の暮らしを見つめ、考えたことを進んで発表しようとしている。	自分の考えを発表している。	初読の感想を書いている。		作品に出てきている言葉の意味を理解し、ノートやワークに整理して書いている。
2	2 ～ 4 本時 2 3	「魚を育てる森」を読んで、自然界の微妙なバランスを壊さないことが大切であるという筆者の考えをつかむ。	文章中に繰り返し登場する言葉に注目し、全体の内容をつかもうとしている。			二つの問題提起を探し、その答えを読み取ることができる。筆者の意見を読み取ることができる。	文末表現に注意している。 「序論」「本論」「結論」の構成がわかる。
3	5	『めぐる輪』の中で生きる」を通読し、筆者の主な論点をとらえる。	「ミニ地球」の資料について箇条書きしている。		初読の感想を書いている。		問題提起がないことを確認。
	6 ～ 7	文章中の事例や筆者の意見に注目して、書かれている内容を要約する。	書かれている内容と自分の接点を考えようとしている。		筆者の考えについて、自分の考えを照らし合わせている。	筆者の言う「めぐる輪」とは何かを説明している。	意味段落の構成を押さえている。

4	8 ~ 10	二つの文章と話し合いから見つけた課題について、図書館の資料などを活用して調べる。	「今自分たちにはできることは何か」という視点で作業を進めている。		わかりやすく説得力のある文章となっている。 自分の考えと調べたことを区別して書いている。		
5	11 ~ 13	課題にしたがってグループを作り、役割分担をして話し合いをする。グループの話し合いの内容をクラス全体に報告する。	相手の意見を受け止め、それをもとに自分の考えを深めようとしている。	互いの意見の交流で、自分の意見をわかりやすく伝えている。	話し合いのメモをとっている。		

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・本論部分(形式段落6~形式段落13)を読み、海に対する森と腐植土の役割を読み取ることができる。

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評価規準 評価の観点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
読むこと	6段落の問題提起の答えを、10段落と11段落の二つの文を取り上げて書いている。 「森は、土を陸地につなぎ留めることで、海の生物を守る役割ももっているのである。」(10) 「腐植土そのものには、海の生物を育てる大事な役割がある」(11) 11段落の海の生物を育てる役割の補足説明として、13段落の最後の「したがって、魚介類を増やすためには、そのいちばんのもととなる植物プランクトンや海藻を増やさなければならぬ。それには、森林の腐植土から流れてくる物質が必要なのである」を引用している。	6段落の問題提起の答えを、10段落と11段落の二つの文を取り上げて書いている。 「森は、土を陸地につなぎ留めることで、海の生物を守る役割ももっているのである。」(10) 「腐植土そのものには、海の生物を育てる大事な役割がある」(11)	問いかけの部分の文末はどうなるかを押さえさせる。「・・・はなぜだろう。」「どうして・・・なのか。」 再度「役割」の言葉に着目させ、この問いに答えている部分に赤い線を引かせる。

(3) 本時の展開

段階	時間	指導内容	生徒の学習活動	留意事項と評価
導入	5分	1 前時の想起	・ノートや教科書を参考にしながら想起する。	「襟裳岬の自然の変化と海の様子」についてまとめたこと、さらにその内容まで簡単に説明できればよい。
		2 本時の学習課題の設定	・学習課題をノートに書き把握する。 筆者は本論で、どのような論を展開しているだろうか。	

段階	時間	指導内容	生徒の学習活動	留意事項と評価
----	----	------	---------	---------

展 開	30分	<p>3 形式段落 6 ~ 1 3 を読み、内容を理解させる。</p> <p>(は発問例)</p> <p>6は説明文の段落の働きで何といえますか。(漢字 4 文字で)</p> <p>6の二つの問題提起は、内容が同じですか。</p> <p>7のキーワードは何ですか。</p> <p>10の「腐植土層の消失したところに大雨が降ると、どのような現象が起こるのですか。」「その結果もたらされる海底での影響を三つにまとめて説明しなさい。」</p> <p>森には海の生物に対して、どんな働きがありますか。</p> <p>資料「よみがえった岩礁」を提示する。</p> <p>腐植土そのものにはどんな働きがありますか。</p> <p>13の「河川が影響する～得られる」という測定結果からどのような結論を述べていますか。</p>	<p>・形式段落 6 ~ 1 3 を読み、6は問題提起で、7 ~ 1 3 は答えの内容だが、大きく二つに分かれることを押さえる。</p> <p>形式段落ごとに音読 (指名読み) する。</p> <p>・6の二つの文は同じ内容を提起していることを押さえる。</p> <p>・7 ~ 1 0 を読み、腐植土の役割 1 と森の役割を押さえる。</p> <p>・海の生物に対する「土砂」「飛砂」の影響を理解する。</p> <p>・11 ~ 1 3 を読み、腐植土の役割 2 と海の生物の食物連鎖のピラミッドを理解する。</p>	<p>7 ~ 1 0 は「森の海の生物を守る役割」、11 ~ 1 3 は「腐植土の海の生物を育てる役割」を指摘できるかチェックする。(「役割」の言葉に注目させる。)</p> <p>6の最初の文は、5までの内容をふまえて述べていて、二つ目の文と同じ内容だということを押さえさせる。</p> <p>7の「これら」がさしているものを言える。</p> <p>8の「腐植土の役割」が9では「調整作用」として使われていることに気づかせる。</p> <p>10の土砂の流失で海底の生物が影響を受けるところの理解で、5の「飛砂」に触れる。</p> <p>11は「腐植土そのものの役割」、12は「腐植土中にできる有機物質の働き」、13は「実際の測定結果からわかること」について述べている。特に13の最後の結論を押さえさせる。</p>
		15分	<p>4 形式段落 6 ~ 1 3 の段落相互の関係を理解させる。</p> <p>5 本論の内容をまとめさせる。</p>	<p>・筆者の論の展開を説明する。</p> <p>・「森は海にとってどのような役割を果たしているのだろうか。森は土を陸地につながり留めることで、海の生物を守る役割がある。腐植土そのものにも海の生物を育てる役割がある。」とまとめることができる。</p>

(4) 板書計画

魚を産む川の森

松本 穂波

筆者は本編より様々な種を産出しているが

6 緑がもみかえるところ、失われた森はなまじうたのほはちのたのしみ

森林は、樹木の根が土壌を固めており、
土壌を保持して水を流出させない

7 **1** **9**

森林の役割 ① 川の水量の調節

- ・ 雨水を吸収し貯蔵
- ・ 土壌を保持して水を流出させない

森林の役割

- ・ 土壌を固めて水を流出させない
- ・ 森林の役割

1 **1** **9**

森林の役割 ② 植物を産むの森は分岐のまじり流す

- ・ 森林を産むの森は分岐のまじり流す
- ・ 森林を産むの森は分岐のまじり流す

本編の解説

森林は樹木の根が土壌を固めており、土壌を保持して水を流出させない。森林は土壌を保持して水を流出させない。森林は土壌を保持して水を流出させない。